

# QAW Ver.3.1 SP1

## - 正誤表 -

クオリティ株式会社

<http://www.quality.co.jp/>

最終更新日:2006/10/24

マニュアル管理番号:QAW31-SE-200610

対象読者:QAW管理者

1. はじめに .....	2
2. QAW Ver.3.1 SP1 正誤表 .....	3
3. QAW Ver.3.1 SP1 差し替え .....	16

# 1. はじめに

本正誤表は、『QAW Ver. 3.1 -SP1 追補マニュアル-』およびQAW Ver. 3.1の各マニュアルの記述誤りや説明漏れ・説明誤り等を正誤表、もしくは差し替えの形式で正確な情報をお知らせすることを目的にしています。

以下、対象マニュアルおよび本正誤表の内容について説明します。

## 1-1 対象マニュアル

本正誤表の対象となるマニュアルを以下に示します。

- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -SP1 追補マニュアル-』 (以下『SP1 追補マニュアル』)
- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -導入編-』 (以下『導入編』)
- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -運用編-』 (以下『運用編』)
- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -リファレンス-』 (以下『リファレンス』)
- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -QIV Ver. 5.1-』 (以下『QIV Ver. 5.1』)
- ▶ 『QAW Ver. 3.1 -リモートコントロール-』 (以下『リモートコントロール』)

## 1-2 本正誤表の内容

本正誤表は、以下の2部構成になっています。

項目	説明
正誤表	『SP1 追補マニュアル』、『導入編』、『運用編』、『リファレンス』、『QIV Ver. 5.1』、『リモートコントロール』の正誤表。各マニュアルごとに表形式で作成。誤っている個所のページ数と内容を示し、誤りの訂正内容を表示 「2. QAW Ver. 3.1 SP1 正誤表」(P.3)を参照
差し替え	『SP1 追補マニュアル』、『導入編』、『リファレンス』、『QIV Ver. 5.1』の追記・差し替え。手順全体や、その他数ページにわたって訂正が必要な個所の差し替え内容を記述 「3. QAW Ver. 3.1 SP1 差し替え」(P.16)を参照

## 2. QAW Ver. 3.1 SP1 正誤表

QAW Ver. 3.1 SP1の正誤表を各マニュアルごとに表形式で示します。  
次の順番で示しています。

※QAW Ver. 3.1 SP1では、紹介編についての誤記は特に報告されていません。

- ▶ 「2-1 『SP1 追補マニュアル』 正誤表」 (P. 3)
- ▶ 「2-2 『導入編』 正誤表」 (P. 4)
- ▶ 「2-3 『運用編』 正誤表」 (P. 7)
- ▶ 「2-4 『リファレンス』 正誤表」 (P. 9)
- ▶ 「2-5 『QIV Ver. 5.1』 正誤表」 (P. 14)
- ▶ 「2-6 『リモートコントロール』 正誤表」 (P. 15)

### ヒント

今回初めて正誤表に掲載した個所については、表の [ページ] 欄に「New」と表示しています。

### 2-1 『SP1 追補マニュアル』 正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
New24	4-2 バージョンアップの実行 ④QNDホストのバージョンアップを実行 QPオプション	バージョン情報が「9.1.00004」であれば	→	バージョン情報が「9.0000003」であれば
New25	4-2 バージョンアップの実行 ④QNDホストのバージョンアップを実行 RCオプション	注意 RCオプションのインストールされているQNDホスト 再起動後にサービスが置換されません。	→	再起動後にファイルが置換されます。
New49	5-2 バージョンアップの実行 ④QNDホストのバージョンアップを実行	表内3行目 [確認内容] 欄 3 [バージョン情報] タブをクリックして表示させます。ファイルバージョンが「9.1.0.3」と表示されていれば、QNDサーバはQAW Ver. 3.1 SP1にバージョンアップしています。	→	3 [バージョン情報] タブをクリックして表示させます。ファイルバージョンが「9.1.0.4」と表示されていれば、QNDサーバはQAW Ver. 3.1 SP1にバージョンアップしています。
New57	5-2 バージョンアップの実行 ④QNDホストのバージョンアップを実行	「タスク実行後、[ホスト一覧] - [QPオプション] 欄に表示されているQAW Ver. 3.1 SP1のQPオプションのバージョン情報が「9.1.000004」であれば、QAW Ver. 3.1 SP1へのバージョンアップに成功しています。」	→	「タスク実行後、[ホスト一覧] - [QPオプション] 欄に表示されているQAW Ver. 3.1 SP1のQPオプションのバージョン情報が「9.0000003」であれば、QAW Ver. 3.1 SP1へのバージョンアップに成功しています。」

## 2-2 『導入編』正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
16	II 3-1 クライアントの対応OS	FreeBSD 4.8 (x86) /4.9 (x86) / 5.1 (x86) /5.2 (x86)	→	FreeBSD 4.4 (x86) /4.6 (x86)
16	II 3-1 クライアントの対応OS	TurboLinux 7.0 (x86) /8.0 (x86) /10.0 (x86) /10.0F (x86)	→	Turbolinux 7.0 (x86)
16	II 3-1 クライアントの対応OS	Red Hat Linux 7.2 (x86) /7.3 (x86) /8 (x86) /9 (x86) / Works/Fedora	→	Red Hat Linux 7.2 (x86) /7.3 (x86)
19	II 4-1 推奨構成 管理対象PC:1000クライア ント以上の場合	表内1行目 [OS] 欄 Windows 2000 Server (SP3)	→	Windows 2000 Server (SP4)
30	III 2-2 KeyServerのライセンスの登 録	QAWサーバをインストールすると、 同時にKeyServerもインストール されます。	→	QNDサーバをインストールすると、 同時にKeyServerもインストール されます。
40	III 3-2 KeyServerのライセンスの登 録	QAWサーバをインストールすると、 同時にKeyServerもインストール されます。	→	QNDサーバをインストールすると、 同時にKeyServerもインストール されます。
New43	V 1-1 マスターサーバとスレーブ サーバ スレーブサーバの役割 マスターサーバのバック アップのために利用するス レーブサーバ（以下、バッ クアップ用スレーブサーバ）	誤表記なし 「注意」を追加	→	<b>注意</b> マスターサーバのデータのバック アップ以外に使用しないでくださ い。
44	V 1-3 スレーブサーバ導入・運用 の流れ	誤表記なし 「注意」を追加	→	<b>注意</b> 既にコンソールをインストール済 みのPC環境にスレーブサーバをイ ンストールする場合は、いったん コンソールをアンインストールす る必要があります。
51	V 2-3 クライアント主導で行うブ ル実行	作業手順は、次のとおりです。 SU時に使う管理者情報の登録 SUの手動インストール スレーブサーバのインストール	→	作業手順は、次のとおりです。 SU時に使う管理者情報の登録 SUの手動インストール インベントリの取得 スレーブサーバのインストール

ページ	見出し	誤		正
51	V 2-3 クライアント主導で行うブル実行 SUの手動インストール	誤表記なし 該当項の次に右の項を追加	→	<b>インベントリの取得</b> スレーブサーバとするPCのハードウェアインベントリを取得します。 QAWコンソールで、ハードウェアインベントリを取得するタスクを作成し、対象PCからブル実行します。 ハードウェアインベントリの取得方法については、『運用編』「I 3. タスクの作成」(P. 21) および「I 3-2 ハードウェアインベントリを収集する設定」(P. 23)、ブル実行については、『運用編』「I 4-3 ブル実行」(P. 41)を参照してください。
51	V 2-3 クライアント主導で行うブル実行 スレーブサーバとQPオプションのインストール	誤表記なし 手順2下に右の記述を追加	→	「作成するタスクの種類を選択」では[全機能タスク]を選択します。
112	VII 1-2 EXEファイルでアンインストールできるプログラム タスクを使ったアンインストール	ヒント アンインストールプログラムのオプション 表内2行目 [動作] 欄 関連するファイルを削除する。 削除時に確認メッセージを表示しない。	→	削除時に確認メッセージを表示しない。
116	VII 5. マスターサーバのアンインストール	手順2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をダブルクリックします。	→	手順2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックします。
New 116	VII 5. マスターサーバのアンインストール	手順9 削除の確認で [はい] をクリックします。アンインストーラが起動し、QAWのマスターサーバ、QAWコンソール、RCコンソール、QIVコンソールが削除されます。	→	手順9 削除の確認で [はい] をクリックします。 アンインストーラが起動します。 ファイル削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。 手順10 [OK] をクリックします。 アンインストールが実行されます。 以上で、アンインストールの手順は終了です。
New 145	X 1-3 機能制限	誤表記無し 右記の文言を「1-3 機能制限」の簡条書で追加	→	MacOS X以降、初回QNDエージェント実行時には、管理者権限のあるアカウントでQNDエージェントを実行する必要があります。
152	X 2-2 動作確認済みOSバージョン	表内1行目 [バージョン] 欄 4.8 (x86) /4.9 (x86) /5.1 (x86) /5.2 (x86)	→	4.4 (x86) /4.6 (x86)

ページ	見出し	誤		正
152	X 2-2 動作確認済みOSバージョン	表内2行目 [バージョン] 欄 Red Hat Linux 7.2 (x86) /7.3 (x86) /8 (x86) /9 (x86) / Works/Fedora turbolinux 7.0 (x86) /8.0 (x86) /10.0 (x86) /10.0F (x86)	→	Red Hat Linux 7.2 (x86) /7.3 (x86) Turbolinux 7.0 (x86)
New 156	X 2-8 ソフトウェアインベントリ	その他のアプリケーションに関しても、任意設定インベントリに文字列として記録する事によりソフトウェアインベントリを収集することができます。	→	その他のアプリケーションに関しては、任意設定インベントリファイル (Userdata) へソフトウェア情報を文字列として記録する事により、任意情報として収集することができます。
New 156	2-8 ソフトウェアインベントリ	誤表記無し 右の記述を追加		<b>注意</b> プロセスが起動していない場合は、インベントリは収集できません。

## 2-3 『運用編』正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤	正
New30	I 3-4 任意設定インベントリを収集する設定	誤表記なし。 手順下に「注意」と「ヒント」追加	<p><b>注意</b> 任意インベントリがクリアされる</p> <p>次の条件に該当する場合は、[インベントリの取得] 欄の設定が「No」と表示されていても、以前に取得した情報はクリアされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[任意設定インベントリを収集] 欄にチェックが入っている</li> <li>・任意設定項目一覧に「項目名」を設定している</li> </ul> <p><b>ヒント</b> 任意インベントリの繰り返し利用</p> <p>任意インベントリを繰り返し利用するにあたって、以下の設定を行っていただくことにより、任意インベントリ収集の2回目以降の入力画面を非表示にすることが可能です。</p> <p>①「タスクのプロパティ」- [任意インベントリ] タブで [任意設定インベントリを収集] にチェックを入れる。</p> <p>②各項目 (No.) それぞれの「任意設定インベントリ」ダイアログで以下項目にチェックを入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この項目の任意設定インベントリを取得する</li> <li>・記憶した値を使う</li> <li>・記憶した値をユーザが入力した値</li> </ul> <p>※初回任意インベントリ収集時は、入力画面が必ず表示されます。</p> <p>※非表示にする任意設定項目にて作業を行ってください。</p> <p>※QNDINV. INIに設定した項目名と同一でない項目名を設定した場合には、QNDホスト側に任意入力画面が表示されますのでご注意ください。</p> <p>※「任意設定インベントリ」ダイアログの [必須入力とする] にはチェックをしないでください。</p>
53	I 5-1 スタンドアロンタスクの制限タスクの設定	表内4行目 [機能制限内容] 欄 誤表記なし 該当節の箇条書きに「注意」追加	<p><b>注意</b> ホストグループの選択</p> <p>「任意設定インベントリ」ダイアログ上で [ホストグループの選択] 欄でホストグループの選択はできますが、設定は無視されます。</p>

ページ	見出し	誤	正
113	Ⅱ ホスト管理	「3. ホストをフィルタリングする」と「5. ホストに電子メールを送信する」の間の、「4」が抜けている	→ 「3. ホストをフィルタリングする」と「5. ホストに電子メールを送信する」の間に、「4. リアルタイムインベントリを参照する……145」を追記
New145	Ⅱ 4. リアルタイムインベントリを参照する	ホストで表示されたウィンドウのウィンドウタイトルをログとして記録します。	→ ホストで表示された <b>アクティブな</b> ウィンドウのウィンドウタイトルをログとして記録します。
211	Ⅳ 3-1 [アプリケーションDB] タブ表示時にホスト一覧に表示される項目 設定した内容をホストに送信する	誤表記なし 手順3下に「ヒント」追加	→ <b>ヒント</b> その他の「設定した内容をホストに送信する」方法 次の方法でも、設定した内容をホストに送信することができます。 ・メニュー [アプリDB] - [ホストごとのDB設定] をクリック ・右クリックして表示される [ホストごとのアプリケーションに関するホストのプロパティ] の [更新] をクリック
New212	Ⅳ 3-2 アプリケーションDBのプロパティ アプリケーションの起動制御	表下に「注意」追加	→ <b>注意</b> 16bitアプリケーション 16bitアプリケーションは制御対象外となります。

## 2-4 『リファレンス』正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤	正
New10	I 1-3 インベントリ情報のバックアップ	<p>インベントリ情報をファイルにバックアップします。 本メニューで保存するディレクトリを指定すると、指定したディレクトリ以下の全てのフォルダとファイルが保存されます。 インベントリ情報をバックアップするには、QNDサーバのインストールディレクトリを指定する必要があります。 インベントリ情報のバックアップを行う前に、QNDエージェントがインベントリ情報にアクセスできないようにする必要があります。 このためには [ツール] - [QNDエージェントの接続の許可] のチェックを外します。</p>	<p>→</p> <p>インベントリ情報をバックアップします。保存されるのは、QAWコンソールの「ツール」メニュー「サーバ固有の設定」 - [インベントリ] タブの「保存用QNDインベントリディレクトリ」で指定したパス以下のディレクトリとファイルです。 ※デフォルトでは、インベントリが保存されるC:\Program Files\QND\Dataディレクトリ以下のディレクトリとファイルです。 メニューを選択すると、保存先ディレクトリを指定するためのダイアログが表示されます。 インベントリ情報のバックアップを行う前に、QNDエージェントがインベントリ情報にアクセスできないようにする必要があります。 このためには [ツール] - [QNDエージェントの接続の許可] のチェックを外します。</p>
29	I 3-7 ソフトウェア一覧 全ソフトウェア一覧 アプリケーションDBに登録済みのアイテムに追加する	<p>手順5下 表内3行目 [説明] 欄 [アプリケーションに関するプロパティ] の</p>	<p>→</p> <p>[アプリケーションに関するホストのプロパティ] の</p>
38	I 4-7 メッセージの送信 宛先の設定	<p>ヒント その他のメッセージの送信方法 「6-14 電子メールの送信」を参照してください。</p>	<p>→</p> <p>「I 6-13 電子メールの送信」を参照してください。</p>
New52	I 6-6 重複したホストのクリア	<p>SNMPによるインベントリ収集等によって、同じホストの情報が複数収集された場合の整理に使用します</p>	<p>→</p> <p>削除</p>
New100	3. SU/QP/RCオプション	<p>表内7行目 [説明] 欄 ホストで表示したウィンドウのログを、QAW コンソールで参照することができます。</p>	<p>→</p> <p>ホストで表示されたアクティブなウィンドウのログを、QAWコンソールで参照することができます。</p>

ページ	見出し	誤	正
New 113	<p>II 6 任意インベントリ 任意設定インベントリ</p>	<p>誤表記なし。 「注意 入力制限の例外」下に 「注意」と「ヒント」追加</p>	<p>→</p> <p><b>注意</b> 任意インベントリがクリアされる</p> <p>次の条件に該当する場合は、[インベントリの取得] 欄の設定が「No」と表示されていても、以前に取得した情報はクリアされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[任意設定インベントリを収集] 欄にチェックが入っている</li> <li>・任意設定項目一覧に「項目名」を設定している</li> </ul> <p><b>ヒント</b> 任意インベントリの繰り返し利用</p> <p>任意インベントリを繰り返し利用するにあたって、以下の設定を行っていただくことにより、任意インベントリ収集の2回目以降の入力画面を非表示にすることが可能です。</p> <p>①「タスクのプロパティ」- [任意インベントリ] タブで [任意設定インベントリを収集] にチェックを入れる。</p> <p>②各項目 (No.) それぞれの「任意設定インベントリ」ダイアログで以下項目にチェックを入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この項目の任意設定インベントリを取得する</li> <li>・記憶した値を使う</li> <li>・記憶した値をユーザが入力した値</li> </ul> <p>※初回任意インベントリ収集時は、入力画面が必ず表示されます。</p> <p>※非表示にする任意設定項目にて作業を行ってください。</p> <p>※QNDINV. INIに設定した項目名と同一でない項目名を設定した場合には、QNDホスト側に任意入力画面が表示されますのでご注意ください。</p> <p>※「任意設定インベントリ」ダイアログの [必須入力とする] にはチェックをしないでください。</p>
125	<p>II 9-2 「インストールするソフトウェアのプロパティ」- [セットアップ] タブ</p>	<p>表内3行目 [説明] 欄 誤表記なし。右の記述を追加</p>	<p>→</p> <p>「セットアッププログラム名で利用できる環境変数」(128ページ)を参照してください。</p>

ページ	見出し	誤	正
128	II 9-2 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [セットアップ] タブ セットアッププログラム名で利用できる環境変数	誤表記なし 表に1行追加	→ [環境変数] :%InstallDir% [場所] :接続先サーバのインストールディレクトリ [使用例] : %InstallDir%\office\setup.exe 『リファレンス』「IV 2. エージェント」(P.178) 表内 [ソフトウェア配布のためのファイルを保存するディレクトリ] 欄を参照してください。
132	II 9-4 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [ファイル転送] タブ ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ	表内2行目 [説明] 欄 接続先サーバ (ホスト一覧の左のカラムの [接続先] に表示されているサーバ) を指定する場合は、コンピュータ名を%で指定することができます。 (例 : ¥¥¥¥data¥sample.doc)	→ 削除
133	II 9-4 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [ファイル転送] タブ A:転送元ファイル名 (転送元ディレクトリ名) で利用できる環境変数	表内2行目 [場所] 欄 「接続先サーバのインストールディレクトリ」下に、右の記述を追加	→ QAWコンソールの [ツール] - [サーバ固有の設定] - [エージェント] - [ソフトウェア配布のためのファイルを保存するディレクトリ] で指定されているディレクトリ ※「ソフトウェア配布のためのファイルを保存するディレクトリ」は、[ツール] - [サーバ固有の設定] - [エージェント] タブで確認/変更が可能
137	II 9-7 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [オプション] タブ	表内1行目 [説明] 欄 誤表記なし 右の記述を追加	→ ※チェックポイントリスタートが、中断しても可能な場合 ①そのタスクで複数のファイルの転送をおこなう設定をしている ②少なくとも1つのファイルの転送が完了している
137	II 9-7 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [オプション] タブ	表内4行目 [説明] 欄 誤表記なし。右の「注意」追加	→ <b>注意 帯域制限できない場合</b> 「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」で、[転送元へのファイルアクセスはエージェントが直接おこなう] にチェックを入れている場合は、この機能が使用できません。 「ファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」については、「II 9-4 「インストールするソフトウェアのプロパティ」 - [ファイル転送] タブファイル/ディレクトリのコピーのプロパティ」(P.131) を参照してください。
194	IV 8-4 ポート番号の説明 マスターサーバが使用するポート番号	表内9行目 [通信種別] 欄 UDP	→ UDP/TCP

ページ	見出し	誤		正
New207	V 1-1 サーバのQNDPlusディレクトリ内のディレクトリと主なファイル	表内9行目 [説明] 欄 QNDマルチキャストを利用した際のログが保存されます。	→	QNDマルチキャストを利用した際のログが保存されます。 ◆マルチキャストでサーバ上に転送したファイル名のログ： マルチキャストによる転送を行った場合、サーバ上に転送したファイル名のログが作成されます。ログに制限はなく、同名のファイルの場合は上書きされます。 ◆マルチキャストによる転送にて作成されたaccept. log： 保存されるログはローテートを行わない仕様のため、制限なく保存されます。
207	V 1-1 サーバのQNDPlusディレクトリ内のおもなディレクトリとファイル	表内11行目 KeyServer	→	KeyServerディレクトリ
209	V 1-4 ホスト側に作成されるおもなディレクトリとファイル	表内4行目 [説明] 欄 誤表記なし 右の記述を追加	→	QAWoption. exe : QPオプションと連携して、QAWの機能をコントロールします。
209	V 1-4 ホスト側に作成されるおもなディレクトリとファイル	表内11行目	→	行ごと削除
209	V 1-4 ホスト側に作成されるおもなディレクトリとファイル」	表内12行目	→	行ごと削除
209	V 1-4 ホスト側に作成されるおもなディレクトリとファイル	表内13行目	→	行ごと削除
209	V 1-4 ホスト側に作成されるおもなディレクトリとファイル	表内14行目	→	行ごと削除
New220	V 5. ハードウェアインベントリ_H100一覧	誤表記なし 表内12行目と13行目の間に5行追加	→	(以下、表の項目とおりに〔CSV番号〕 / 〔名称〕 / 〔説明〕) に記述) [95] / [ドライブの種類] / [Bドライブ固定] [96] / [ボリュームラベル] / [Bドライブ固定] [97] / [総容量] / [Bドライブ固定] [98] / [空き容量] / [Bドライブ固定] [99] / [論理ドライブ名] / [Cドライブ固定]
272	V 19-1 ハードウェア関連情報	表内1行目 [収集項目] 欄 アップタイム/起動してからの秒数 (DMI)	→	(DMI) を削除
272	V 19-1 ハードウェア関連情報	表内1行目 [Windows (Win32) エージェント] 欄 △ (DMI 項目として)	→	○

ページ	見出し	誤	正
New 276	V 20-4 QP/SUリモートインストール 時のエラー一覧	表内10行目下に1行追加	→ (以下、表の項目どおり [原因] / [対処方法] 順に記述) [QNDサーバサービス 「Application Integrate Server」 のログオンアカウント情報（アカ ウントとパスワード）と、同じア カウント情報が対象ホストに存在 しない。] / [対象ホストに、QND サーバサービス「Application Integrate Server」を起動してい るアカウント情報と同じアカウン ト情報を登録してください。]

## 2-5 『QIV Ver. 5.1』 正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
53	V 5-2 台帳の表示	誤表記なし 右の「ヒント」を追加	→	<b>ヒント 利用時間</b> サスペンドおよび0休止中は、アプリケーション利用時間に含まれて計算されます。
61	V 11-2 台帳の表示 「MS-OFFICE (PRODUCT-ID)」 台帳	誤表記なし 台帳表下に注意追加	→	<b>注意</b> Microsoft製品のインベントリ収集においては、入力されたProduct-IDを変換した値でレジストリに記録されている場合があります。そのためMS-Office (Product-ID) 台帳で表示されるIDが入力されたProduct-IDとは異なる場合があります。
66	V 14-2 台帳の表示 SW-ADOBE (PRODUCT-ID) 台帳	<b>注意 「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」 台帳の項目表示について</b> 誤表記なし 右の記述を追加	→	Adobe製品のインベントリ収集においては、特定のレジストリからシリアル番号等の値を取得しています。一部のAdobe製品では、仕様により、入力されたシリアル番号を変換した値をレジストリに設定している場合があります。そのため、「SW-ADOBE (PRODUCT-ID)」台帳で表示されるIDが入力されたシリアル番号とは異なる場合があります。
101	VII 4-2 CSVファイルとして出力する 台帳や出力先を指定する	表内3行目 [説明] 欄 任意のファイル名.csv・・・	→	「.csv」を削除
103	VII 4-2 CSVファイルとして出力する 台帳や出力先を指定する 台帳名/セクション名対応表	表内15行目 [iniファイルのセクション名として入力する文字列] 欄 QND Plug-in Products	→	QProducts
103	VII 4-2 CSVファイルとして出力する 台帳や出力先を指定する 台帳名/セクション名対応表	誤表記なし 表に1行追加	→	[台帳名] : カスタム台帳 [iniファイルのセクション名として入力する文字列] : CSTM**** ※「****」はランダムな数値

## 2-6 『リモートコントロール』 正誤表

マニュアルの内容に誤りがあります。下記、正誤表をご覧ください。

ページ	見出し	誤		正
13	3. RCオプションのインストール	誤表記なし 右の「注意」を追加	→	<p><b>注意 RCオプション（常駐モード）の再インストール</b></p> <p>バージョンアップなどの目的で、RCオプション（常駐モード）を再インストールした場合、リモート操作ができなくなったり、リモート操作中に操作画面が突然終了したりすることがあります。それぞれの原因と対処は、次のとおりです。</p> <p><b>リモート操作ができない</b> RCオプション（常駐モード）の再インストール後、ホストの再起動がおこなわれていない。 対処：ホストの再起動</p> <p><b>リモート操作画面の突然終了</b> リモート操作中に、タスクによるRCオプション（常駐モード）の再インストールが実行された。対処：リモート操作中にRCオプション（常駐モード）のインストールが実行されないようにする</p> <p>※必要のない限り、RCオプションインストール済みのホストに対し、再インストールを行わないことをお奨めします。</p>
22	3-3 インストール方法 [QPオプションとSUのインストール] を利用したRCオプションのインストール	手順8下 <b>注意</b> リモートコントロールの機能は、RCオプションをインストール後にホスト側でいったんログオフし、ログオンし直してから有効になります。	→	削除
New 29	7-1 ホストグループ一覧	リード文下に右の「注意」を挿入	→	<p><b>注意 グループ/フィルタ</b></p> <p>リモートコントロールでは、グループとフィルタで動作上の違いが無いため、フィルタもグループに含まれています。</p>
42	9-2 開始 QAWコンソールからのリモートコントロール	手順3 ・RCオプションが「自動開始」モードのRCホストの場合、	→	・RCオプションが「常駐」モードのRCホストの場合、

### 3. QAW Ver. 3.1 SP1 差し替え

本章では、QAW Ver. 3.1 SP1に関連するマニュアルの差し替え個所について説明します。

QAW Ver. 3.1 SP1の差し替え個所は、次表のとおりです。

変更点	変更内容	差し替え/挿入個所
ライセンスカウントについて	QAW Ver. 3.1 SP1のマニュアルで説明していなかった、QAWのライセンスカウント数について補足説明します。ここでは、SNMPホストやNetSkipperからQNDホストに登録する場合に、どこからQAWのライセンスカウント数に計算するかを説明します。 参照先：「3-1 ライセンスカウントについて」(P.16)	『SP1 追補マニュアル』
クライアントインストーラを利用したインストール	QAW Ver. 3.1 SP1のマニュアルのクライアントインストーラを利用したインストール手順については、手順やパス名等に誤りや説明不足がありました。本変更内容はそれらの誤りを修正したものです。 参照先：「3-2 クライアントインストーラを利用したインストール」(P.16)	『導入編』「2-6 クライアントインストーラを利用したインストール」(P.90～106)
定期的集計/出力する	QIV Ver. 5.1から変更のあった、定期的集計・出力する設定について、『QIV Ver. 5.1』マニュアルでは記述漏れ等があったので、記述漏れの有る個所に追記する内容として作成したものです。 参照先：「3-3 定期的集計/出力する」(P.32)	『QIV Ver. 5.1』「VII 4. 定期的集計/出力する」(P.99～103)
タスクインベントリ一覧	QAW Ver. 3.1 SP1マニュアルで説明されていなかった、タスクインベントリ一覧について補足説明しています。 参照先：「3-4 タスクインベントリ一覧」(P.40)	『リファレンス』

#### 3-1 ライセンスカウントについて

ここではQAWのライセンスカウントについて説明します。

次の条件に該当するPCは、製品ライセンスとしてカウントされます。

- ▶ インベントリ収集済みで、QAWコンソールのホスト一覧にQNDホストとして表示されている  
(NetSkipperホストからインベントリ収集した場合も、インベントリ収集した時点で製品ライセンスとしてカウントされます。SNMPホストについては、製品ライセンスとしてカウントされません。)

#### 3-2 クライアントインストーラを利用したインストール

次のような状況のPCに対して、クライアントインストーラを用いてクライアントプログラムをインストールします。

- ▶ QNDサーバとクライアント間の回線が細い
- ▶ QNDサーバのネットワークに接続していない
- ▶ ネットワークを介した転送に問題がある
- ▶ キットアップをするためのPCを作成する
- ▶ 何らかの理由で一時的にクライアントがQNDサーバに接続できないが、あらかじめクライアントプログラムをインストールしたい

#### おもなファイルの説明

クライアントインストーラを利用してクライアントプログラムをインストールを実行する際に使用するファイルについて次の表に示します。

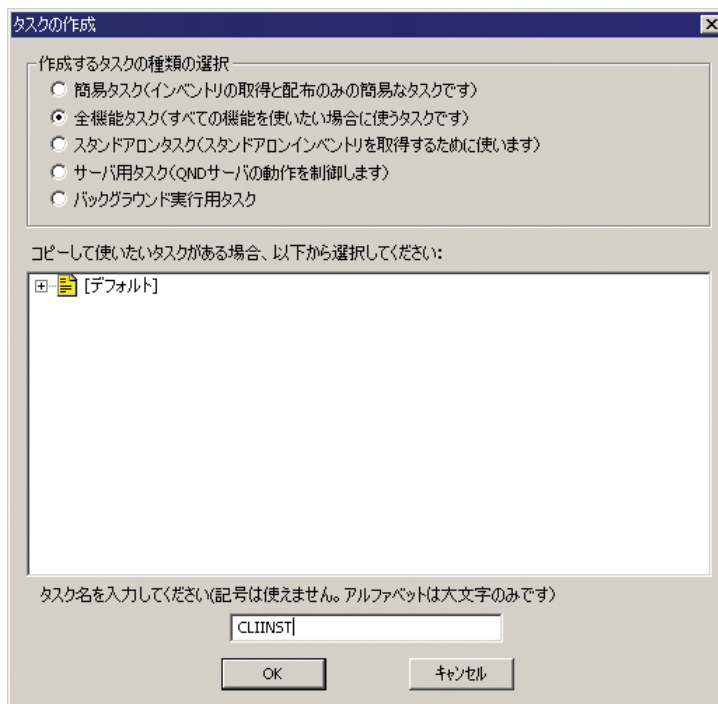
ファイルの場所	説明
(製品CD) ¥QND¥CLIENTINSTALLER¥jp¥Autorun. exe	クライアントインストーラ開始用プログラム
(製品CD) ¥QND¥CLIENTINSTALLER¥jp¥Autorun. ini	Autorun. exeの設定ファイル
(製品CD) ¥QND¥CLIENTINSTALLER¥jp¥CLIENT¥Setup. exe	クライアントプログラムをインストールする実行ファイル
(QAWのインストールディレクトリ) ¥bin¥QNDPK	QNDサーバとの通信に使用する認証鍵 管理者が作成したタスクをプッシュ実行する際、QNDサーバが持つQNSDKとQNDホストが持つQNDPKが一致したときのみ、タスクが処理される

## セットアップ方法

クライアントインストーラを用いたクライアントプログラムのインストールの手順を説明します。

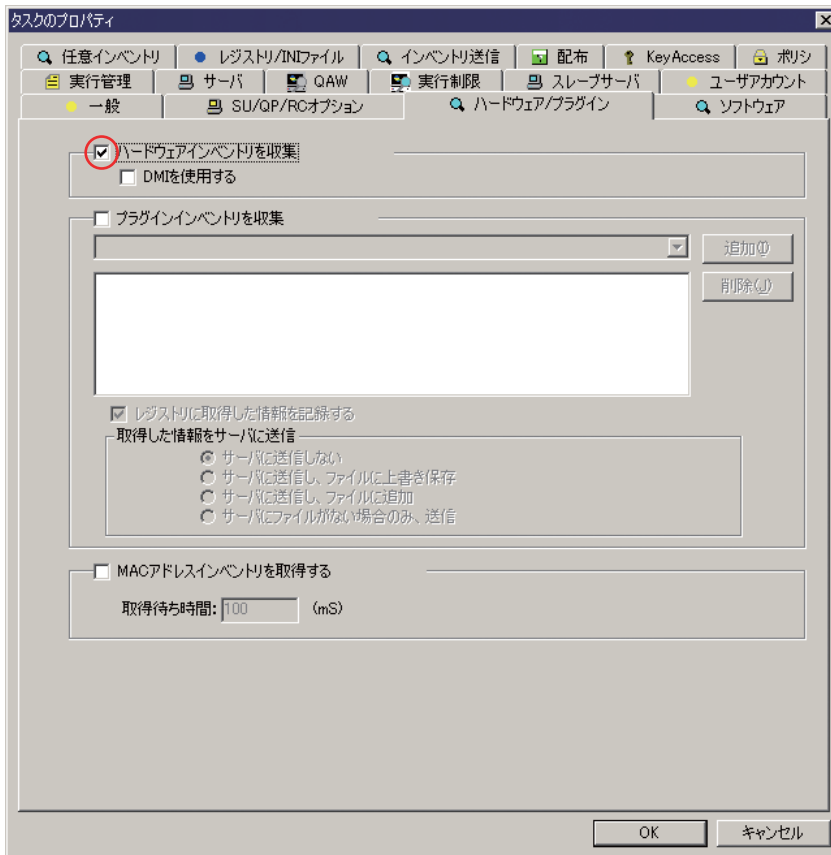
### ▶ 管理者側の操作

- 手順1 QAW コンソールを起動します。
- 手順2 [タスク] - [タスク作成：名前のみ] をクリックします。  
「タスクの作成」ダイアログが表示されます。
- 手順3 [全機能タスク] をオンにして、タスク名を入力します。



- 手順4 [OK] をクリックします。  
タスク一覧に作成した空のタスクが表示されます。
- 手順5 作成したタスクをダブルクリックします。  
「タスクのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順6 [ハードウェア/プラグイン] タブをクリックします。

手順7 [ハードウェアインベントリを収集] にチェックを入れます。

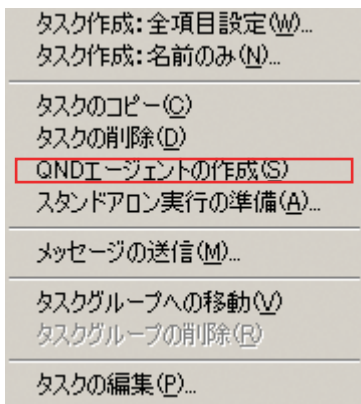


手順8 [OK] をクリックします。

「タスクのプロパティ」ダイアログが閉じて、QAWコンソール画面に戻ります。

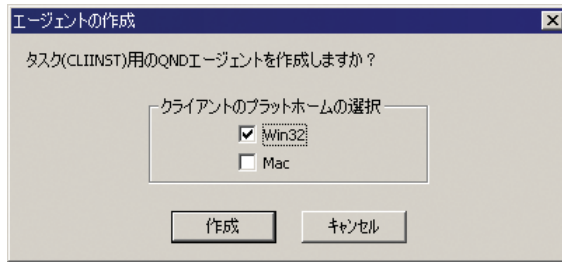
手順9 タスク一覧から作成したタスクを選択して右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。



手順10 [QNDエージェントの作成] をクリックします。

「エージェントの作成」ダイアログが表示されます。

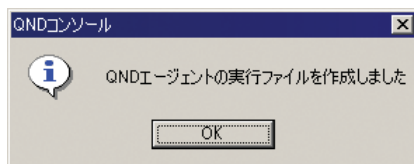


- 手順11 [作成] をクリックします。  
QNDエージェントが作成されます。

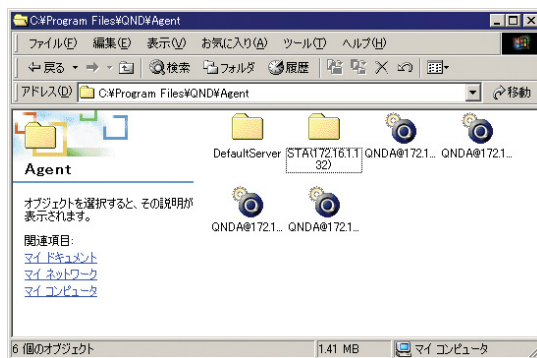
#### ヒント QNDエージェントが作成される場所

QNDエージェントは、[ツール] - [サーバ固有の設定] を選択すると表示される「サーバ固有の設定」ダイアログの [エージェント] タブの [QNDエージェントを共有するディレクトリ:] 欄に設定しているディレクトリに作成されます。  
デフォルトでは、(QAWのインストールディレクトリ) ¥Agentディレクトリ直下に作成されます。

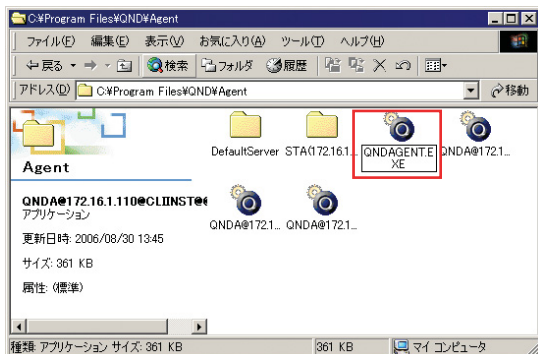
次のメッセージダイアログが表示されます。



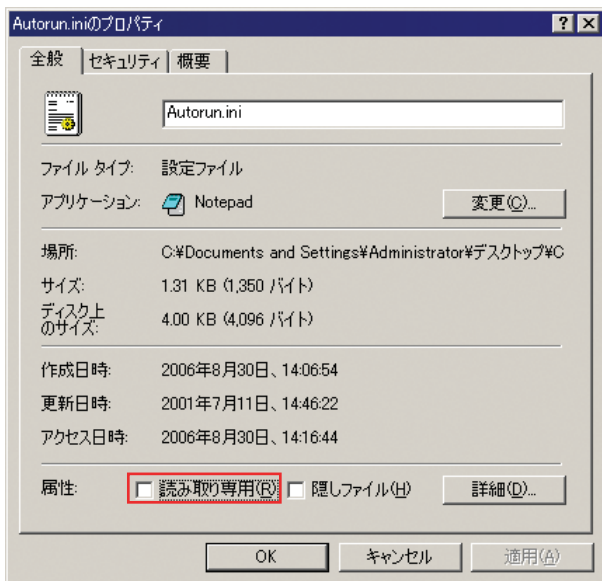
- 手順12 [OK] をクリックします。  
QAWコンソールに戻ります。
- 手順13 QNDエージェント作成先ディレクトリを開きます。



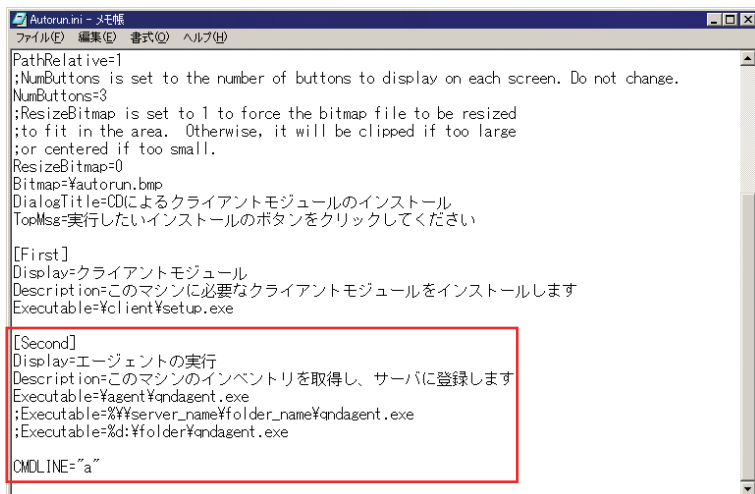
- 手順14 作成したQNDエージェントファイル名を「QNDAGENT.EXE」に変更します。  
(大文字でも小文字でもかまいません。)



- 手順 15 製品CD内にあるCLIENTINSTALLERディレクトリを、QNDサーバPCのローカル上にコピーします。
- 手順 16 コピーしたCLIENTINSTALLER¥jp¥client¥source直下に、(QAWのインストールディレクトリ) ¥bin¥QNDPKファイルをコピーします。
- 手順 17 「CLIENTINSTALLER」ディレクトリの¥jp¥agentディレクトリ直下に、「QNDAGENT.EXE」を配置します。
- 手順 18 CLIENTINSTALLER¥jp¥Autorun.iniファイルを右クリックし、表示されるコンテキストメニューから [プロパティ] をクリックします。  
「Autorun.iniのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 手順 19 [読み取り専用] のチェックを外します。



- 手順 20 [OK] をクリックします。  
「Autorun.iniのプロパティ」が閉じます。
- 手順 21 Autorun.ini ファイルをダブルクリックします。  
Autorun.iniファイルが表示されます。



手順 22 次の表を参考にして、qndagent.exe を配置した場所に応じた設定を行ってください。

### ヒント デフォルト設定

上記手順とおりに各ファイルを配置している場合は、Autorun.ini ファイルのデフォルト設定と同じになるため、Autorun.ini ファイルを編集せずに、そのままご利用になれます。

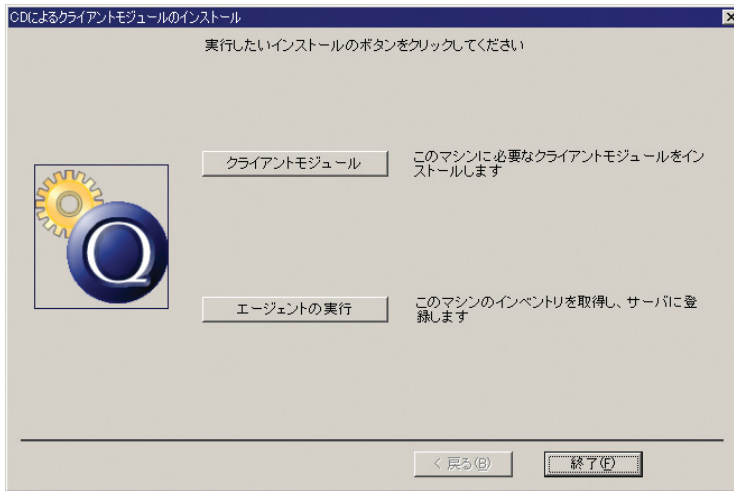
「qndagent.exe」の配置場所	説明
クライアントのローカル	クライアントプログラムをインストールするクライアントのローカル上にCLIENTINSTALLERディレクトリを配置している場合には、次の方法で設定 [Second] セクションの「Executable=%agent%qndagent.exe」のパス指定先をQNDAGENT.EXEを配置したディレクトリに編集する
ファイルサーバや別PC上	ファイルサーバやネットワーク上のPCなど、クライアントプログラムをインストールするクライアントPC以外の場所で、該当クライアントPCから参照可能な場所にQNDAGENT.EXEを配置している場合、次の方法で設定 [Second] セクションの「Executable=%agent%qndagent.exe」の行の先頭に「;」を入力して本設定を無効にする 「;Executable=%server_name%folder_name%qndagent.exe」の行の先頭の「;」を削除して有効にする 「Executable=%server_name%folder_name%qndagent.exe」のパス指定先をQNDAGENT.EXEを配置したディレクトリのパスに編集する ※ [Server_name] にサーバPC名、[Folder_name] にQNDAGENT.EXEを配置したディレクトリまでのパスを指定
Autorun.exeが存在するPCのDドライブ	編集したCLIENTINSTALLERディレクトリをCDに保存して、クライアントプログラムをインストールするクライアントPCからDドライブのQNDAGENT.EXEを参照する場合には、次の方法で設定 [Second] セクションの「Executable=%agent%qndagent.exe」の行の先頭に「;」を入力して本設定を無効にする 「;Executable=%d:%folder%qndagent.exe」の行の先頭の「;」を削除して有効にする 「Executable=%d:%folder%qndagent.exe」のパス指定先をCD内のQNDAGENT.EXEを配置したディレクトリのパスに編集する ※ [Folder_name] にQNDAGENT.EXEを配置したディレクトリまでのパスを指定

手順 23 上書き保存し、「Autorun.ini」を閉じます。

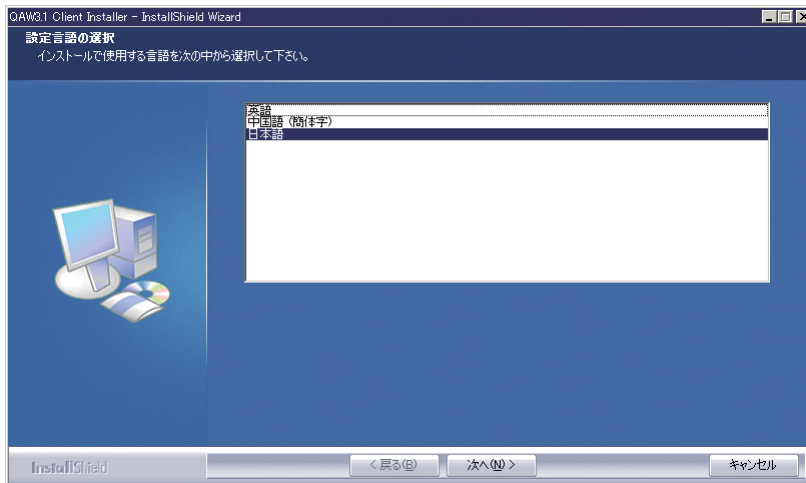
以上で、管理者側での設定は終了です。

## ▶ クライアント 側の操作

- 手順1 (製品CD) ¥QAW¥ClientInstaller¥jp¥autorun.exeをダブルクリックします。  
「CDによるクライアントモジュールのインストール」 ダイアログが表示されます。



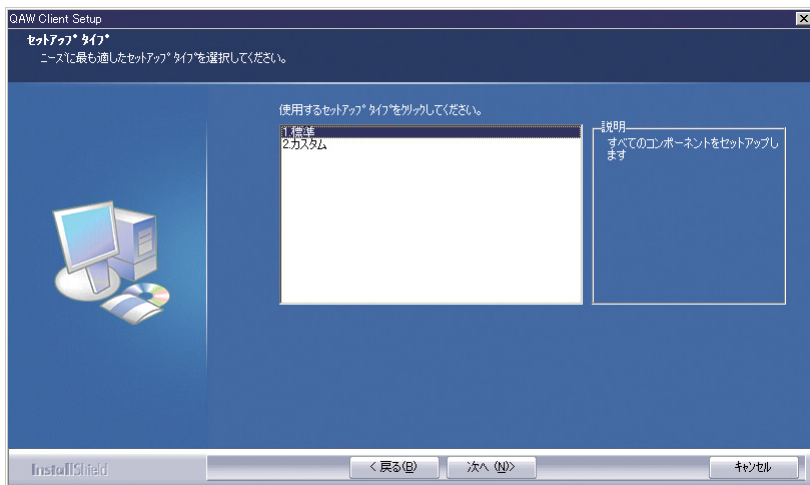
- 手順2 [クライアントモジュール] をクリックします。  
「設定言語の選択」 ダイアログが表示されます。



- 手順3 インストールで使用する言語を選択し、[次へ] をクリックします。  
ここでは、日本語を選択したものとします。  
「QAW ClientのInstallShield Wizardへようこそ」 ダイアログが表示されます。



- 手順4 [次へ] をクリックします。  
「セットアップタイプ」ダイアログが表示されます。

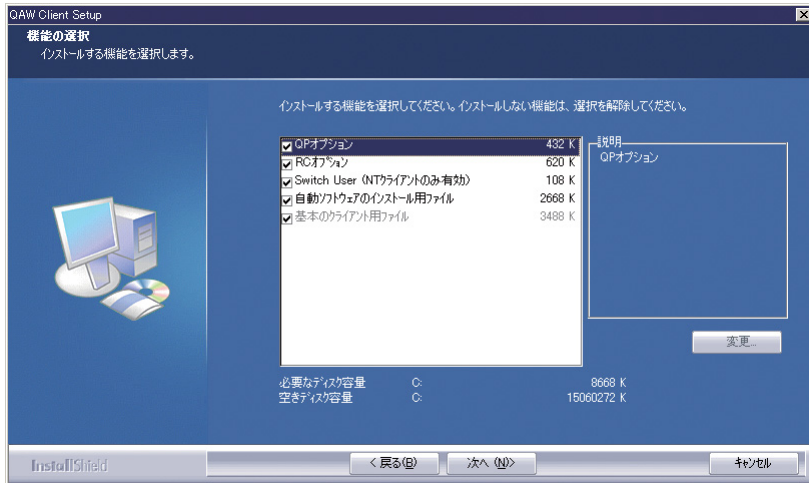


- 手順5 次の表を参考に、[カスタム]、[標準] のどちらかを選択します。

セットアップタイプ	説明
標準	次のコンポーネントがインストールされる <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ QP オプション</li> <li>▶ RC オプション</li> <li>▶ Switch User (NT クライアントのみ有効)</li> <li>▶ 自動ソフトウェアのインストール用ファイル</li> <li>▶ 基本のクライアント用ファイル</li> </ul>
カスタム	次の項目からインストールするコンポーネントにチェックを入れる <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ QP オプション</li> <li>▶ RC オプション</li> <li>▶ Switch User (NT クライアントのみ有効)</li> <li>▶ 自動ソフトウェアのインストール用ファイル</li> <li>▶ 基本のクライアント用ファイル</li> </ul>

- 手順6 [次へ] をクリックします。  
 ・ [標準] を選択した場合は、クライアントプログラムのインストールが開始されます。  
 手順8下のユーザーアカウント作成に進んでください。

- ・ [カスタム] を選択した場合は、次の画面が表示されます。

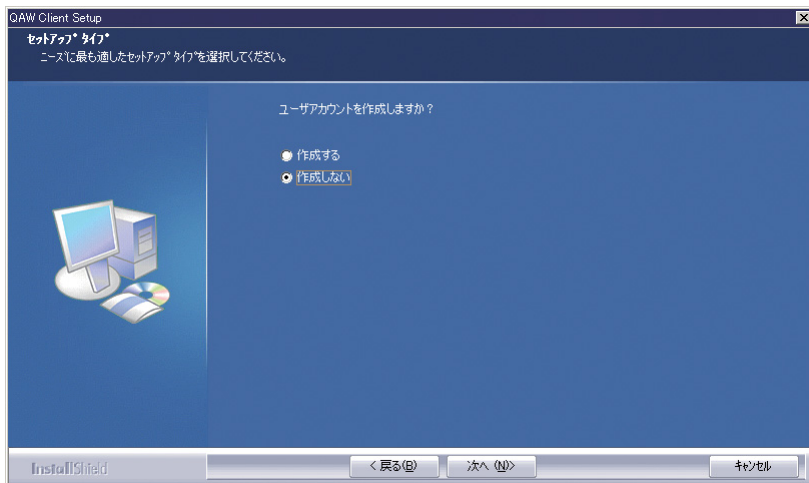


- 手順7 次の表を参考に、インストールするコンポーネントを選択します。

項目	説明
QPオプション	QPオプションがインストールされる
RCオプション	RCオプションがインストールされる RCオプションを選択すると、QPオプションも自動的に選択される
Switch User (NTクライアントのみ有効)	SU (Switch User) がインストールされる 管理者権限が必要な操作を行う場合は必須のファイル
自動ソフトウェアのインストール 用ファイル	自動インストール時に必要
基本のクライアント用ファイル	QNDホストとなる上で必要なファイルがインストールされる

- 手順8 [次へ] をクリックします。

「ユーザアカウントを作成しますか？」ダイアログが表示されます (WindowsNTクライアントのみ)。

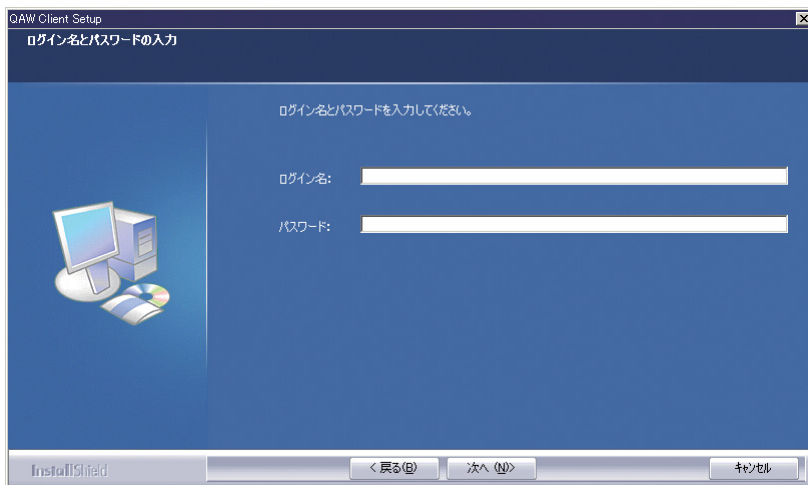


手順9 ユーザアカウントを作成するかしないか選択し、[次へ] をクリックします。

項目	説明
作成する	クライアントにQAW用のローカル管理者アカウントを作成
作成しない	ユーザアカウント作成を省略し、インストールを開始

- [作成する] を選択した場合は、次に進んでください。
- [作成しない] を選択した場合は、[手順10](#)下のQPオプションの通信モード選択に進んでください。

「ログイン名とパスワードの入力」ダイアログが表示されます。



手順10 次の表を参考に入力し、[次へ] をクリックします。

項目	説明
ログイン名	登録するQAW用管理者アカウント名を入力
パスワード	[ログイン名] に対応するパスワードを入力

「QPオプションの通信モード」ダイアログが表示されます。

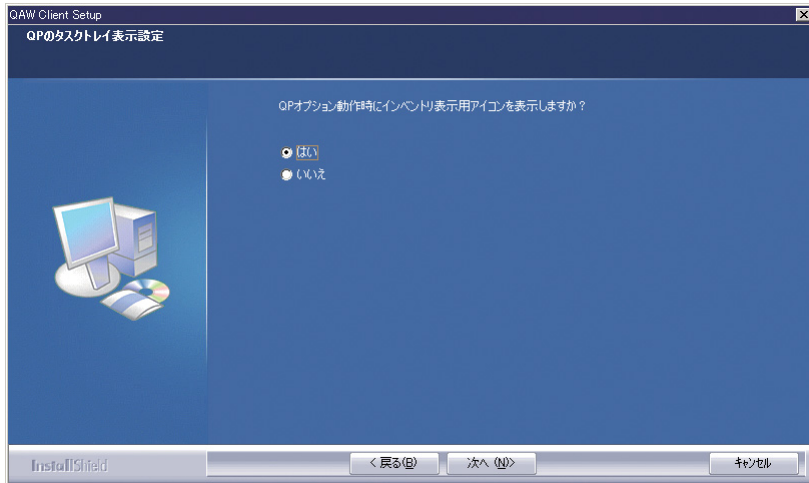


手順11 次の表を参考に選択します。

項目	説明
標準	UDPを使用するQPオプションをインストール
NAT対応 (TCP)	TCP/IPを使用するQPオプションをインストール
メールQP対応	メール対応QPオプションをインストール (*1)

\*1 メール対応QPオプションをクライアントインストーラでインストールすると、サーバとの通信モードは自動的に常時接続となり、間欠接続は選択できません。間欠接続に変更する場合は、タスクからの再インストールが必要です。

「QPのタスクトレイ表示設定」ダイアログが表示されます。



手順12 QNDホストのタスクトレイに、QPオプション動作時にインベントリ表示用アイコンを表示するか否かを選択し、[次へ] をクリックします。

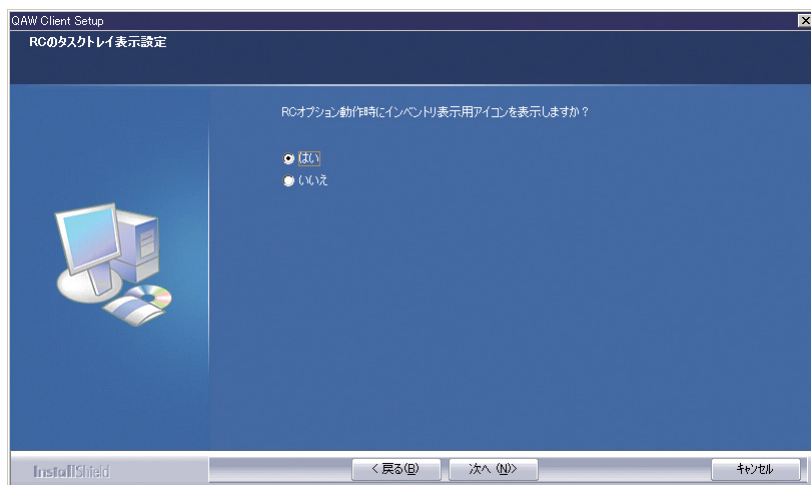
「RCオプションモード」ダイアログが表示されます。



手順13 次の表を参考に RC オプションの常驻モードを選択し、[次へ] をクリックします。

モード	説明
常驻させる	サーバとQNDホストを常時接続し、TCPセッションを維持する場合に指定
非常驻	サーバとQNDホストを定期的に接続し、接続ごとにTCPセッションを確立する場合に指定

「RCのタスクトレイ表示設定」ダイアログが表示されます。



手順 14 次の表を参考に RC オプションの表示・非表示を選択し、[次へ] をクリックします。

項目	説明
はい	RCオプションのアイコンがQNDホストのタスクトレイに表示される
いいえ	RCオプションのアイコンがQNDホストのタスクトレイに表示されない

クライアントプログラムのインストールが開始されます。  
「インストール完了」ダイアログが表示されます。



手順 15 [完了] をクリックします。

インストールウィザード画面が閉じて、「CDによるクライアントモジュールのインストール」に戻ります。

#### ヒント 再起動を促すダイアログが表示された場合

インストール完了後、再起動を促すダイアログが表示される場合があります。その際には、再起動後、サービスが有効になります。再起動を実行した場合は、製品CDをセットして、再度（製品CD）¥QAW¥CLIENTINSTALLERY.jp¥autorun.exeを実行します。



手順 16 「エージェントの実行」をクリックします。

QNDエージェントが実行されます。

#### ▼ ヒント 実行されるQNDエージェント

実行されるQNDエージェントは、ハードウェアインベントリ収集を設定したタスクです。QAWコンソールのホスト一覧で、クライアントインストーラでクライアントプログラムをインストールしたQNDホストが確認できます。



QNDエージェント実行画面が消えたあと、「CDによるクライアントモジュールのインストール」に戻ります。

手順 17 「終了」をクリックします。

以上で、クライアントインストーラを利用してのインストールは終了です。

#### ▼ ヒント

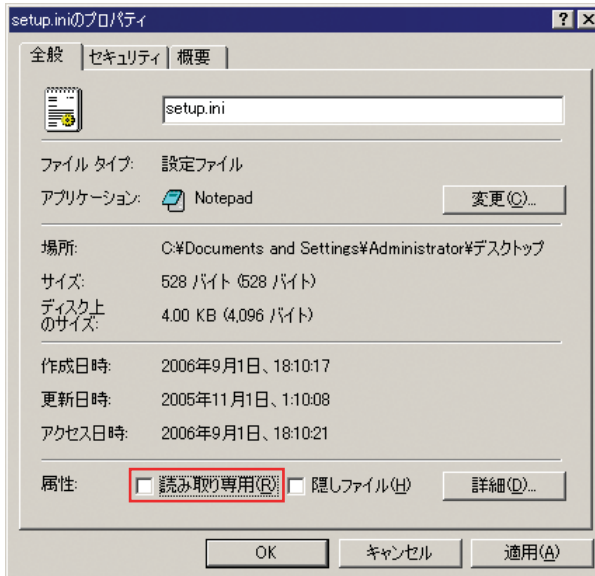
クライアントプログラムのインストールとインベントリ取得のためのQNDエージェント実行の2つのタスクを連続して行うように、クライアントインストーラで設定することができます。設定方法は、次項で説明します。

### クライアントへのインストールと同時にタスク実行

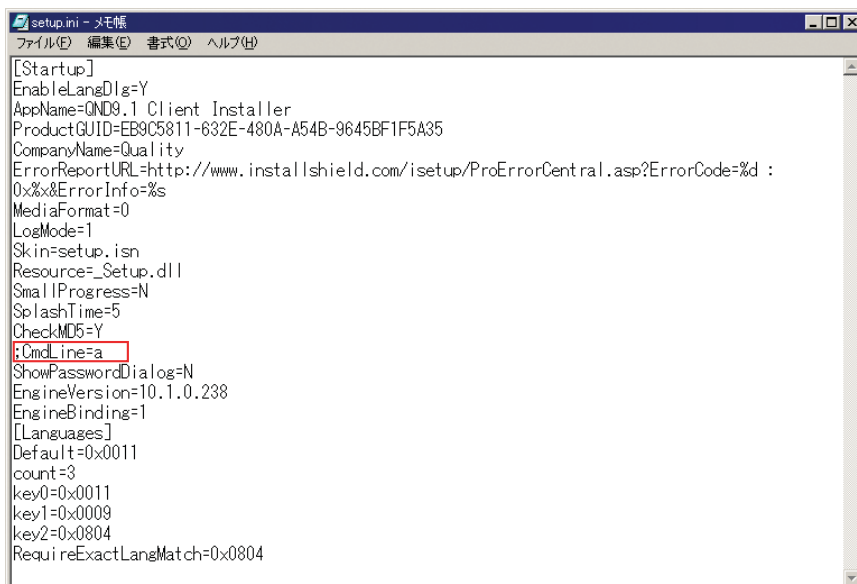
ここでは、クライアントへのクライアントプログラム実行とタスク実行を同時に行う方法について説明します。

## ▶ QAW管理者側の設定

- 手順1 前項「セットアップ方法」の手順15まで（製品CDからCLIENTINSTALLERディレクトリをコピーしてQNDPKファイルとQNDAGENT.EXEを配置した状態）を実行します。
- 手順2 CLIENTINSTALLER¥jp¥Client¥Setup.iniファイルを右クリックし、表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」をクリックします。
- 手順3 「読み取り専用」のチェックを外します。



- 手順4 「OK」をクリックします。  
「setup.iniのプロパティ」ダイアログが閉じます。
- 手順5 Setup.iniファイルをダブルクリックします。  
Setup.iniファイルが開きます。



- 手順6 「[Startup]」セクションの「;CMDLINE="a"」から「;」を削除します。

手順7 Setup.iniファイルを上書き保存して、閉じます。

手順8 作成したディレクトリを各クライアントから参照できるファイルサーバにコピー、またはCDにしてクライアントに配布します。

### ▶ クライアント側での操作

手順1 (QAW管理者が用意したCDもしくはファイルサーバ) ¥CLIENTINSTALLER¥jp¥client¥Setup.exeをダブルクリックします。

クライアントインストーラが起動して、インストールウィザードが表示されます。

手順2 インストールウィザードにしたがって、インストールを実行します。

インストール完了後に、自動的にQNDエージェントが実行されます。

QNDエージェントの終了後に「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。

手順3 [完了] をクリックします。

インストール作業は終了です。

## サイレントインストールの設定

クライアントにインストール画面を表示させず、クライアントプログラムのインストールを実行します。

### ▶ 管理者側の設定

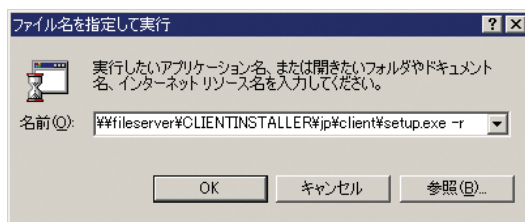
ISSファイル (セットアップ設定の記録) を作成し、ディレクトリにコピーします。

Setup.issファイルは、クライアントのOSごと、インストールをカスタマイズする場合は、それぞれのインストール設定の内容ごとに作成し、準備します。

手順1 CLIENTINSTALLERディレクトリを、ファイルサーバ上にコピーします。

手順2 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] でCLIENTINSTALLER¥jp¥client¥Setup.exeを指定し、「-r」を追加します。

※「-r」の前には、半角スペースを入力してください。



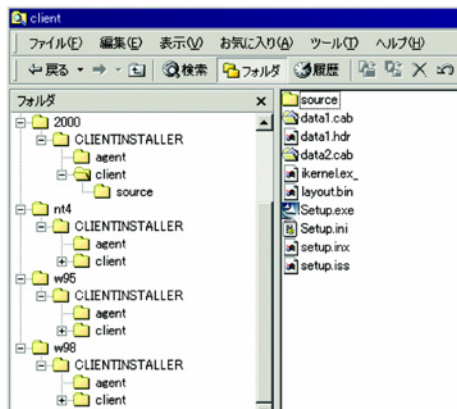
手順3 [OK] をクリックします。

クライアントプログラムのインストーラが起動します。

画面表示にしたがって、インストールを完了してください。インストールの詳細については、「[クライアント側の操作](#)」(P. 22) を参照してください。

インストールが終了すると、Windowsディレクトリ内にSetup.issファイルが作成されます。

手順4 Setup.issファイルを、(ファイルサーバ) ¥CLIENTINSTALLER¥clientディレクトリにコピーします。



手順5 OSごとに手順1~4を行い、ディレクトリを作成してください。

手順6 作成したディレクトリを各クライアントから参照できるファイルサーバにコピー、または、CDにコピーしてクライアントに配布します。

### ▶ クライアント側の操作

手順1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] でOSに対応した (CD/ファイルサーバ)  
¥CLIENTINSTALLER¥jp¥client¥Setup.exeを指定し、「-s」を追加します。

手順2 [OK] をクリックします。  
インストールが開始されます。  
以上でサイレントインストールの手順は終了です。

## キitting作業への利用

キitting元のPCでクライアントインストーラを実行し、クライアントにキitting元のハードウェアのイメージをコピーします。

### ⚠ 注意 ホストIDの重複

QNDでは、QNDホストを識別するために各QNDホストに対して「ホストID」を発行します。このホストIDは、エージェントを実行する際に作成されます。

ホストIDが重複すると、そのPCは同じQNDホストとして扱われてしまい、QAWの運用時に重大な問題となります。

ハードディスクのコピーを作成する場合は、元となるPCのイメージにクライアントインストーラを実行した直後のイメージをコピーしてください。

### ▶ 管理者側の作業

手順1 クライアントインストーラを実行した直後のハードウェアのイメージをコピーします。

手順2 クライアントにこのイメージをコピーします。

### ▶ クライアント側の作業

手順1 クライアントでエージェントを実行します。

以上で、キitting作業でのクライアントインストーラの利用は終了です。

### 3-3 定期的に集計/出力する

現在ご利用頂いている『QIV Ver. 5.1』に記述漏れ・記述誤り等があったので、該当箇所を差し替える為に作成したものです。『QIV Ver. 5.1』「VII 4. 定期的に集計/出力する」(P. 99~103) 章をそのまま本節の「3-3 定期的に集計/出力する」の内容に読み替えてください。

主な変更点は、次表のとおりです。

変更点	変更内容
セクション名で入力する値	従来のバージョンでは、各台帳の識別をセクション名で行っていたが、QAW Ver3.1からは、「ReportID」で行うように変更 これにより、各種台帳の定期的CSV出力を行うための設定を複数定義することが可能となった
ReportIDで入力する値	QAW Ver3.1より追加された機能 従来のバージョンでは、各台帳の識別をセクション名で行っていたが、QAW Ver3.1からは、各台帳の識別を「ReportID」で行うように変更 そのため、「台帳名/セクション名対応表」を「台帳名/デフォルトセクション名/ReportID名対応表」に変更
カスタム台帳の定期的CSV出力の設定方法を追記	カスタム台帳の定期的CSV出力についての手順を追記

台帳作成に必要な集計処理や台帳をCSV出力する処理を、定期的に自動実行させることができます。定期的に自動実行するためには、wait.confファイルとOutputCSV.iniファイルの2つのファイルを利用します。

#### ヒント QAW Ver. 3.1からの追加機能

QAW Ver. 3.1から追加された機能があります。1つの台帳に対して、複数の定義が設定可能になりました。本機能の運用例については、「④1つの台帳から2つのCSVファイルを出力する」(P. 39)を参照してください。

#### ヒント サンプルファイルの利用

サンプルファイルとして、wait.conf.sample ファイル ((QAW のインストールディレクトリ) ¥QIV¥schedule に格納) と OutputCSV.ini.sample ((QAW のインストールディレクトリ) ¥QIV¥SRVDAT¥util に格納) が用意されています。この両サンプルファイルを必要に応じて編集して、ファイル名を「wait.conf」と「OutputCSV.ini」に別名保存してご利用ください。

台帳作成に必要な集計処理、および台帳をCSV出力する処理の設定方法は、次の順序で実行します。

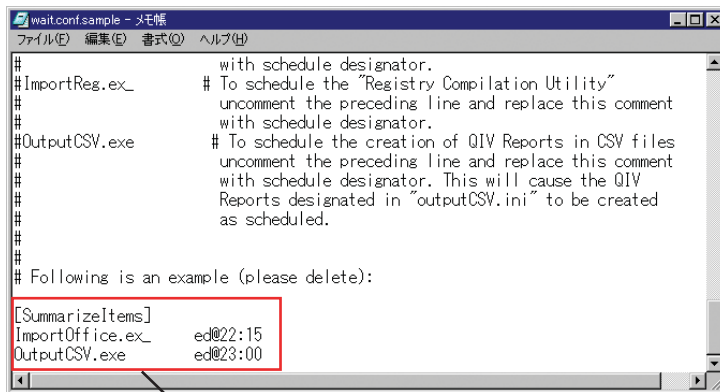
- ▶ 集計/出力処理のタイミングを指定する
- ▶ CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する

#### ①集計/出力処理のタイミングを指定する

ここでは自動で集計処理を実行、およびCSV出力するタイミングの指定方法について説明します。ここではMS-OFFICE集計ユーティリティを毎日18時に実行させて、毎日0時にCSV出力させる運用想定で設定します。

**手順2** (QAWのインストールディレクトリ) ¥QIV¥schedule¥wait.conf.sampleファイルをメモ帳等のアプリケーションで開きます。

wait.conf.sampleファイルが表示されます。



この部分を書き換える

手順3 次の表を参考に上画像の [SummarizeItems] 以下を書き換えてください。

### 集計

デフォルト設定	説明
ImportOffice.ex_	実行させる集計ユーティリティのファイル名を指定 集計ユーティリティを実行させるには、後述の「台帳/集計ユーティリティ対応表」(P. 33) を参照
ed@22:15	集計ユーティリティを実行させるタイミングを指定 集計ユーティリティ実行のタイミング設定についての詳細は、後述の「実行するタイミングの記述方法」(P. 34) を参照
OutputCSV.exe	CSVファイルを出力するプログラムのファイル名 ファイル名は固定のため、変更不可
ed@23:00	実行した集計ユーティリティをCSV出力させるタイミングを指定 CSV出力させるタイミング設定についての詳細は、後述の「実行するタイミングの記述方法」(P. 34) を参照

### 台帳/集計ユーティリティ対応表

台帳名	実行する集計ユーティリティ	記述するファイル名
APP-CopyID矛盾リスト	Copy ID Discrepancies Compilation Utility	ImportMCopyID.ex_
APP-InstallList	Installed Application Compilation Utility	ImportApplList.ex_
APP-利用時間-ホスト別 (hh:mm:ss) / (s) APP-利用時間-ユーザ別 (hh:mm:ss) / (s)	Application Usage Compilation Utility	ImportUserTime.ex_
台帳は表示されません アプリケーション利用時間の情報を集計し、CSVファイルに出力します CSVファイルの出力先： ¥QNDP us¥QIV¥Import¥ Data¥db¥Process.csv 上のAPP-利用時間-ホスト別 (hh:mm:ss) / (s) への設定に影響は与えません	Usage Log Compilation Utility	ImportProcessLog.ex_
SW-INSTALL (1) (2) (3) APP-ライセンスチェック	Application DB Apps Compilation Utility	ImportInst.ex_

台帳名	実行する集計ユーティリティ	記述するファイル名
MS-OFFICE MS-OFFICE (PRODUCT-ID)	MS-Office Compilation Utility	ImportOffice.ex_
REG-PC	Registry Compilation Utility	ImportReg.ex_
SW-ADOBE SW-ADOBE (PRODUCT-ID)	Adobe Products Compilation Utility	ImportAdobeInfo.ex_
SW-AutoCAD SW-AutoCAD (シリアルナンバー)	AutoCAD Compilation Utility	ImportAutoCad.ex_
SW-KEY	KeyServer Compilation Utility	ImportAppKey.ex_
SW-LotusNotes	Notes Info Compilation Utility	ImportNotes.ex_
SW-OSINFO	OS Info Compilation Utility	ImportOSInfo.ex_
USR- 既存	External Database Compilation Utility	ImportKizonInv.ex_
クオリティ社オプション 製品インベントリ台帳	QProducts Report Compilation Utility	ImportQProducts.ex_

#### 実行するタイミングの記述方法

指定内容	記述方法	意味
毎時mm分	eh@00	毎時0分
毎日hh時mm分	ed@12:00	毎日12時
毎週w1曜hh時mm分	ew MON@8:00	毎週月曜日の8時
毎月dd日hh時mm分	em 10@10:00	毎月10日の10時
	em 99@10:00	毎月末の10時

手順4 編集が終了したら、wait.conf.sampleファイルwait.confファイルに別名保存して閉じます。

以上で、自動で集計処理を実行、およびCSV出力するタイミングの指定方法は終了です。  
引き続き次項では、CSVファイルとして出力する台帳や、その出力先をOutputCSV.iniファイルで指定する方法について説明します。

#### ②CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する

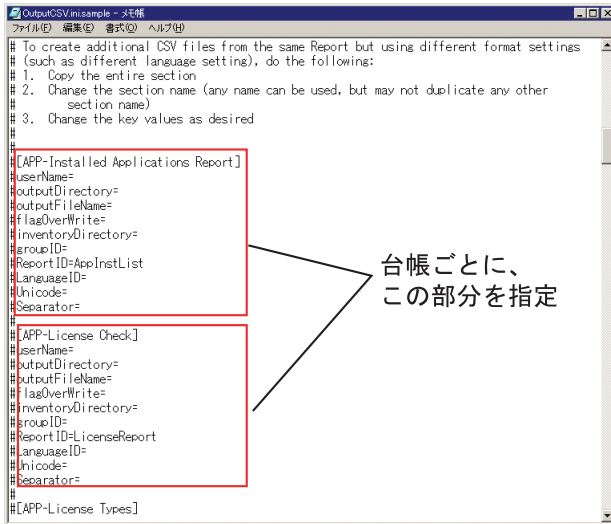
CSV出力する台帳や出力先の指定方法について説明します。  
ここでは、以下の条件でCSV出力させる運用想定で設定します。

##### 【運用想定】


- ▶ APP-InstallList台帳
- ▶ セクション名はデフォルトのまま (APP-Installed Applications Report)
- ▶ ユーザ名「user01」
- ▶ 出力対象グループとして「Tokyoグループ」のみを指定
- ▶ タイトルの言語は日本語、出力文字コードはANSI、カンマ区切りでCSV出力
- ▶ インベントリデータが存在するディレクトリはC:\Program Files\Invent\%db
- ▶ 出力先はC:\%temp、ファイル名はAPP-InstallList台帳
- ▶ 同名ファイルが存在する場合は上書き保存

手順1 (QAWのインストールディレクトリ) %QIV%SRVDDAT%util%OutputCSV.ini.sampleファイルをメモ帳等のアプリケーションで開きます。

OutputCSV.ini.sampleファイルが表示されます。



手順2 次の表を参考にファイル内各項目を入力してください。

項目	説明	
[セクション名]	<p>該当する台帳のセクション名を入力（任意のセクション名）</p> <p>OutputCSV. ini. sampleファイルの台帳設定ごとにデフォルトで値を記載 デフォルトのセクション名については、後述の「<a href="#">台帳名/デフォルトセクション名/ReportID名対応表</a>」(P.36)を参照</p> <p> <b>注意</b> セクション名</p> <p>OutputCSV. iniファイル内で同名で複数のセクション名を定義している場合、最初に定義されたセクションのみ有効とし、以降の定義情報は無効となります。セクション名は重複しないように設定してください。</p>	
UserName	QIVサーバへのログオンユーザ名（ここで指定したユーザによる設定で台帳が作成される）	
outputDirectory	出力先ディレクトリ。フルパスで指定	
outputFileName	任意のファイル名（ファイル名を省略した場合は、台帳名と同じファイル名で拡張子がcsvのファイルが作成される）	
flagOverWrite	同名ファイルが存在した場合は上書きするときはTRUE、上書きしないときにはFALSEを指定（デフォルト値はTRUE）	
	指定なし	TRUEと同じ動作
	指定したファイル名でCSVファイルを出力	同名のファイルがすでに存在する場合は上書き
	FALSE	指定したファイルに「yyyyymmdd_hhmmss」を付加してCSVファイルを出力
inventoryDirectory	<p>データが存在するディレクトリ名をフルパスまたはUNC名で指定 「インベントリデータの保存先ディレクトリ¥db」ディレクトリまで指定 デフォルト設定の場合の記述例は次のとおり inventoryDirectory=C:¥Program Files¥QNDPlus¥Data¥db [サーバ固有の設定] - [インベントリ] - [保存用QNDインベントリディレクトリ]で指定されているディレクトリ内を指定する場合は、空欄にしておくとして上記個所が指定先ディレクトリとみなされる 例えば、タスク指定で保存しているインベントリデータをCSV出力対象とする場合は、「(インベントリ保存先ディレクトリ) ¥Task¥ (タスク指定でインベントリ保存したフォルダ名) ¥db」と指定</p>	

項目	説明
groupID	出力対象となるグループ名（デフォルトは全ホスト） 指定したグループまたはフィルタに所属するホストのインベントリ情報のみを出力する。フィルタを指定する場合は、[グループA/フィルタA] のように指定 階層化されているグループは / でつなげてグループのフルパスを記述
ReportID	出力対象となる台帳のReportIDを指定 OutputCSV. ini. sampleファイルの各台帳設定ごとにデフォルトで各台帳に対応するReportID値が記載 各台帳に対応するReport IDについては、後述の「 <a href="#">台帳名/デフォルトセクション名/ReportID名対応表</a> 」(P.36) を参照
LanguageID	タイトル行の言語を指定 文字列化言語コードに登録されている言語コードを指定します。指定可能な言語コードは次のとおり <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ja (日本語)</li> <li>▶ en-us (英語)</li> <li>▶ zh-cn (中国語)</li> </ul> 指定なし、または無効値が指定された場合は、使用PCのシステムデフォルトの言語コードで出力
Unicode	出力文字コードをUnicodeにする/しないを指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Yes (Unicodeで出力)</li> <li>▶ No (ANSIで出力)</li> </ul> 指定なし、または「No」以外はUnicodeで出力。大文字、小文字は区別しない
Separator	セパレータ文字を指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ TAB (TAB区切り)</li> <li>▶ COMMA (カンマ区切り)</li> </ul> 指定なし、または上記指定値以外については、「Unicode」値（出力文字コード）により決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Unicode 出力の場合 TAB区切り</li> <li>▶ ANSI 出力の場合 カンマ区切り</li> </ul>

#### 台帳名/デフォルトセクション名/ReportID名対応表

ここでは、CSV出力時に設定する必要がある台帳名/デフォルトセクション名/ReportID名について示します。

※デフォルトセクション名とは、OutputCSV. ini. sampleファイルで編集前の初期値として設定されているセクション名です。

台帳名	デフォルトセクション名	ReportID名
APP-CopyID矛盾リスト	MismatchingCopyID	MismatchingCopyID
APP-InstallList	APP-Installed Applications Report	APPInstList
APP-ライセンスチェック	APP-License Check	LicenseReport
APP-設定リスト	APP-License Types	AppDBSetup
APP-利用時間 ホスト別 (hh:mm:ss)	UseTime_Host (hhmmss)	UseTime_Host (hhmmss)
APP-利用時間 ホスト別 (s)	UseTime_Host (s)	UseTime_Host (s)
APP-利用時間 ユーザ別 (hh:mm:ss)	UseTime_User (hhmmss)	UseTime_User (hhmmss)

台帳名	デフォルトセクション名	ReportID名
APP-利用時間 ユーザ別 (s)	UseTime_User(s)	UseTime_User(s)
HW-DMI	HW-DMI	DMI
HW-DRIVE	HW-Drives	PCDrive
HW-NETWORK	HW-Network Items	Network
HW-PC	HW-Hardware (1)	Hardware
HW-USER	HW-Hardware (2)	PCUser
MS-OFFICE	MS Office	QivOffice
MS-OFFICE (PRODUCT-ID)	MS Office (with Product ID)	QivOfficeWithProID
PC-倉庫	PC-Warehoused Computers	HostsInStore
PC-廃棄	PC-Discarded Computers	HostsInTrash
REG-PC	REG-Registry	RegReport
SW-ADOBE	SW-Adobe Products	AdobeInfo
SW-ADOBE (PRODUCT-ID)	SW-Adobe Products (with Product ID)	AdobeInfoWithProductID
SW-AutoCAD	SW-AutoCAD	AutoCAD
SW-AutoCAD (シリアルナンバー)	SW-AutoCAD (with Serial Number)	AutoCAD_PRODUCTID
SW-EXEList	SW-All Files	QNDSWList
SW-INSTALL (1)	SW-Application DB Apps (1)	InstallReport
SW-INSTALL (2)	SW-Application DB Apps (2)	InstallReportOR
SW-INSTALL (3)	SW-Application DB Apps (3)	InstallReportANDOR
SW-KEY	SW-KeyServer	AppKey
SW-LotusNotes	SW-Lotus Notes	NotesInfo
SW-OSINFO	SW-OS Info	OSInfoReport
USR-既存	USR-External Database	KizonInv
USR-任意	USR-User-Defined	UserOptInv
クオリティ社オプション製品 インベントリ台帳	QProducts	QProducts
カスタム台帳		CSTM**** ※「****」はランダムな数値

※カスタム台帳はフォーマットは準備されていません。カスタム台帳の設定については、[「③カスタム台帳の定期CSV出力」\(P.38\)](#)を参照してください。

ここでは、運用想定にしたがって以下のとおりに設定します。

```
#[APP-Installed Applications Report]
#userName=user01
#outputDirectory=C:\¥temp
#outputFileName=APP-Instal11List台帳
#flagOverWrite=TRUE
#inventoryDirectory=C:\¥Program Files¥Invent¥db
#groupID=Tokyo
#ReportID=APPInstList
#LanguageID=ja
#Unicode=No
#Separator=COMMA
```

手順3 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。

手順4 編集が終了したら、OutputCSV.ini.sampleファイルをOutputCSV.iniファイルに別名保存して閉じます。

以上で、CSVファイルとして出力する台帳や、その出力先の指定方法は終了です。

### ③カスタム台帳の定期CSV出力

カスタム台帳の情報を定期的にCSV出力する設定方法について説明します。  
ここでは、以下の条件でCSV出力させる運用想定で設定します。

#### 【運用想定】

- ▶ カスタム台帳
- ▶ ユーザ名「user01」
- ▶ 出力対象グループとして「Tokyoグループ」のみを指定
- ▶ タイトルの言語は日本語、出力文字コードはANSI、カンマ区切りでCSV出力
- ▶ インベントリデータが存在するディレクトリはC:¥Program Files¥Invent¥db
- ▶ 出力先はC:¥temp、ファイル名はカスタム台帳
- ▶ 同名ファイルが存在する場合は上書き保存

手順1 カスタム台帳を作成します。  
カスタム台帳の作成方法については、『QIV Ver. 5.1』「V 22. カスタム台帳」(P. 77) を参照してください。

手順2 CSV出力処理のタイミングを指定します。  
設定方法については、「①集計/出力処理のタイミングを指定する」(P. 32) を参照してください。

手順3 QNDサーバPCの（QAWのインストールディレクトリ）¥QIV¥SRVDAT¥Reports¥Lang¥jaディレクトリを参照します。

手順4 ディレクトリ内にある「CSTM\*\*\*\*. REPCONF」（「\*\*\*\*」はランダムな数値）をメモ帳等のアプリケーションで開きます。  
ここでは定期CSV出力するカスタム台帳のファイル名をCSTM1000. REPCONFとします。

CSTM1000. REPCONFファイルの情報が表示されます。  
Title項目にはカスタム台帳の台帳名が記載されています。

手順5 Title項目が定期出力するカスタム台帳名になっているかを確認します。  
（複数のカスタム台帳を用いている場合は、定期CSV出力するカスタム台帳名であるかご注意ください）

手順6 （QAWのインストールディレクトリ）¥QIV¥SRVDAT¥util¥OutputCSV.ini.sampleファイルをメモ帳等のアプリケーションを開きます。

手順7 OutputCSV.iniファイルのReportIDに、確認した対象カスタム台帳CSTM\*\*\*\*. REPCONFファイルのファイル名より拡張子を除いた部分を入力します。

例:ファイル名が「CSTM1000. REPCONF」の場合「CSTM1000」

手順8 その他の必要な設定を入力して下さい。  
設定方法については「②CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する」(P. 34) を参照してください。

ここでは、上記運用想定にしたがって以下のとおりに設定します。

```
#[CSTM1000]
#userName=user01
#outputDirectory=C:¥Program Files¥QNDPlus¥QIV¥csv
#outputFileName= カスタム台帳
```

```
#flagOverWrite=TRUE
#inventoryDirectory=C:\Program Files\Invent\db
#groupID=Tokyo
#ReportID=CSTM1000
#LanguageID=ja
#Unicode=No
#Separator=COMMA
```

手順9 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。

手順10 編集が終了したら、OutputCSV.ini.sampleファイルをOutputCSV.iniファイルに別名保存して閉じます。

以上で、カスタム台帳の定期的なCSV出力設定は終了です。

#### ④1つの台帳から2つのCSVファイルを出力する

QAW Ver. 3.1から1つの台帳で複数の定義が設定可能になりました。  
本節では、1つの台帳から2種類のユーザアカウントを用いた場合の設定方法を説明します。

##### **【運用想定】**

- ▶ APP-InstallList台帳
- ▶ セクション名を1つ目の台帳を [APP-Inst-01]、2つ目の台帳を [APP-Inst-02] とする  
(デフォルトセクション名は [APP-Installed Applications Report])
- ▶ ユーザ名「qndadmin」と「user01」
- ▶ 出力対象グループとして「Tokyoグループ」のみを指定
- ▶ タイトルの言語は日本語、出力文字コードはANSI、カンマ区切りでCSV出力
- ▶ インベントリデータが存在するディレクトリはC:\Program Files\Invent\db
- ▶ 出力先はC:\temp
- ▶ ファイル名は1つ目の台帳をAPPInstallList台帳1、2つめの台帳をAPPInstallList台帳2
- ▶ 同名ファイルが存在する場合は上書き保存

##### **注意 セクション名**

OutputCSV.iniファイル内で同名で複数のセクション名を定義している場合、最初に定義されたセクションのみ有効とし、以降の定義情報は無効となります。セクション名は重複しないように設定してください。

手順1 APP-InstallList台帳を作成します。  
APP-InstallList台帳の作成方法については、『QIV Ver. 5.1』(P.44)「V 1.APP-Install List」を参照してください。

手順2 (QAWのインストールディレクトリ) %QIV%\SRVDAT\util\OutputCSV.ini.sampleファイルをメモ帳等のアプリケーションを選択して開きます。

「OutputCSV.ini.sample」ファイルが表示されます。

手順3 CSV出力処理のタイミングを指定します。  
設定方法については、「①集計/出力処理のタイミングを指定する」(P.32)を参照してください。

手順4 CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定します。  
設定方法については、「②CSVファイルとして出力する台帳や出力先を指定する」(P.34)を参考に、上記2種類のユーザアカウントを用いた設定をしてください。

ここでは、上記運用想定にしたがって以下のとおりに設定します。

```
#[APP-Inst-01]
#userName=qndadmin
#outputDirectory=C:\temp
#outputFileName=APPInstallList台帳1
```

```
#flagOverWrite=TRUE
#inventoryDirectory=C:\Program Files\Invent
#groupID=Tokyo
#ReportID=AppInstList
#LanguageID=ja
#Unicode=No
#Separator=COMMA

#[APP-Inst-02]
#userName=user01
#outputDirectory=C:\temp
#outputFileName=APPInstallList台帳2
#flagOverWrite=TRUE
#inventoryDirectory=C:\Program Files\Invent\%db
#groupID=Tokyo
#ReportID=AppInstList
#LanguageID=ja
#Unicode=No
#Separator=COMMA
```

手順5 上記設定部分 [userName] から [Separator] までの、左端に表示されている「#」（シャープ）を削除します。

手順6 編集が終了したら、OutputCSV.ini.sampleファイルをOutputCSV.iniファイルに別名保存して閉じます。

以上で、1つの台帳から2つのCSVファイルを出力する設定は終了です。

### 3-4 タスクインベントリ一覧

『リファレンス』「V 付録」に「タスクインベントリ一覧」として記述されているべき「QND\_T.CSV」ファイルのインベントリ情報項目についての説明が抜けていました。

本来は『リファレンス』「V 12. Hotfixインベントリ一覧」(P. 223) の後に記載する内容です。

「QND\_T.CSV」は、QNDホストに対して実行したタスク情報を出力します。そのため、タスクに設定した内容によって表示内容が異なります。

項目番号の階層が深くなっているのは、直前に出力される項目分だけ繰り返し出力される個所で、項目数が0の場合は、その階層は出力されません。

#### 注意 ONとOFFの設定

項目によってはONが0でOFFが1、あるいはONが1でOFFが0の設定になっていますので、ご注意ください。

項目番号	項目内容	備考
1	タスク名	
2	ホストID	
3	実行開始日時	
4	タスクのコメント	
5	最大アクセス数	回数表示（設定なしは-1）
6	ダイアログを表示する	0:OFF/1:ON
7	ダイアログに表示されるメッセージのカスタマイズをする	0:OFF/1:ON
8	ダイアログに表示されるメッセージの内容	

項目番号	項目内容	備考	
9	任意設定インベントリを収集	0:ON/1:OFF	
10~208	項目名1-100 (偶数数字)		
11~209	コメント1-100 (奇数数字)		
210	タスク実行後の処理	0:実施しない/1:再起動/2:ログオフ/3:シャットダウン	
211	配布数	配布するソフトウェアの総数 (1-14を総数分繰り返す)	
	1	ソフトウェア名	
	2	PCDファイル名	
	3	セットアッププログラム名	
	4	インストールの重要度	0:必須/1:選択/2:強制
	5	インストールファイルのアクセス方法	0:ネットワークドライブ/1:ファイル転送
	6	転送元ディレクトリ	
	7	パスワードによるアクセス保護をする	0:ON/1:OFF
	8	管理者アカウントを使ってインストールを実行する	0:ON/1:OFF
	9	ID	セットアップID
	10	インストールするディレクトリ	フォルダ表記
	11	必要なディスク容量	数字表記
	12	ファイル転送の項目数	
	1	転送元ディレクトリ・ファイル名	「ファイル転送の項目数」分だけ繰り返す 0:指定されたディレクトリ内のみ/1:再帰的に全部をコピー
	2	転送先ディレクトリ	
	3	ディレクトリ全体	
	13	レジストリエントリを設定する	0:ON/1:OFF
	14	レジストリ設定の項目数	
	1	設定するレジストリパス	「レジストリ設定の項目数」分だけ繰り返す
	2	設定するレジストリの名前	
	3	セットするレジストリの値	
	4	レジストリタイプ	
212	Windowsエージェントのみ:KeyAccessのインストールを行う	0:OFF/1:ON	
213	プログラム選択	1:デスクトップユーザ/0:モバイルユーザ	
214	プロトコル	1:TCP/IP / 0:IPX	
215	ユーザー名ソースの選択	1:Windowsのログオン名/0:コンピュータ名/0:環境変数	
216	環境変数		
217	KeyServerのアドレス		
218	KeyAccessのステータス	0:タスクバーにアイコンとして表示/1:タスクトレイに表示/2:表示無し	
219	5分後にメッセージを消去	0:ON/1:OFF	
220	KeyServerのアドレスの時刻と同期	0:ON/1:OFF	

項目番号	項目内容	備考
221	ヒントを表示	0:ON/1:OFF
222	Mac用のKeyAccessを置いておくフォルダ	QAWではダイアログが無い
223	キーをつけるソフトウェアの設定項目数	
	1 ソフトウェア名	「キーをつけるソフトウェアの設定項目数」分だけ繰り返す
	2 ファイル名	
224	ポリシーを設定する	0:OFF/1:ON
225	ポリシーの設定項目数	
	1 設定されたポリシーの内容	「ポリシーの設定項目数」分だけ繰り返す
226	ポリシーで許可されたWindowsアプリケーションの数	
	1 ファイル名	「ポリシーで許可されたWindowsアプリケーションの数」分だけ繰り返す
227	レジストリエントリを取得する	0:ON/1:OFF
228	レジストリの取得項目数	
	1 レジストリパス名	「レジストリの取得項目数」分だけ繰り返す
	2 名前	
229	クライアントマシンの時計をサーバの時刻と同一にする	0:OFF/1:ON
230	QP/RCオプションをインストールする	0:OFF/1:ON
231	実行結果のエラーコード「全般」	
232	実行結果のエラーコード「QPオプションのインストール」	
233	実行結果のエラーコード「時刻の設定」	
234	実行結果のエラーコード「再起動・ログアウト・シャットダウン」	
235	実行結果のエラーコード「インベントリの収集」	
236	実行結果のエラーコード「KeyAccessのインストール」	
237	実行結果のエラーコード「ポリシーの設定」	
238	実行結果のエラーコード「レジストリの取得」	
239	「配布」の設定項目数	
	1 実行結果のエラーコード「配布」	「「配布」の設定項目数」分だけ繰り返す
240	「キー付け」の設定項目数	
	1 実行結果のエラーコード「キー付け」	
241	実行結果のメッセージ「全般」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
242	実行結果のメッセージ「QPオプションのインストール」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
243	実行結果のメッセージ「時刻の設定」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
244	実行結果のメッセージ「再起動・ログアウト・シャットダウン」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
245	実行結果のメッセージ「インベントリの収集」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ

項目番号	項目内容	備考
246	実行結果のメッセージ「KeyAccessのインストール」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
247	実行結果のメッセージ「ポリシーの設定」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
248	実行結果のメッセージ「レジストリの取得」	内容は、タスクログの詳細の表示と同じ
249	「配布」の設定項目数	
	1 実行結果のメッセージ「配布」	「配布」の設定項目数分だけ繰り返す
250	「キー付け」の設定項目数	
	1 実行結果のメッセージ「キー付け」	「キー付け」の設定項目数分だけ繰り返す